



DataServer ELS からDataServer へのコンバージョン

DataServer ELSインストールディレクトリ /home/ELS
DataServer インストールディレクトリ /home/DS

1. SQL/Aデータベース設計変換スクリプトの作成

Step1 DataServer ELSの環境変数の設定

```
UNIFY=/home/ELS/lib
DBPATH=/home/ELS_DB
DBNAME=file.db
PATH=/home/ELS:/home/ELS/bin:$PATH
REL2000=/home/DS
CONV=/home/DS/conv
PATH=/home/DS/conv:$PATH
```

以下の2つはここでは必要ないが、ACCELL/IDSのアプリケーションを実行するときには必要になる。

```
TERMCAP=$UNIFY/termcap
UNICAP=$UNIFY/unicap
```

Step2 ファイルのセーブ

DBPATH内のすべてのファイルをセーブし、DBPATHには3つのファイルのみ残しておく。
残しておいた3つのファイル

```
file.db
file.dbr
unify.db
```

Step3 DataServer用のデータベースを作成するためのディレクトリを作成し、ディレクトリを移る。

```
$ mkdir $DBPATH/../DS_DB
$ cd $DBPATH/../DS_DB
```

Step4 変換準備ユーティリティの実行

```
$ $CONV/prep.sh
```

Step5 変換ユーティリティの修正

\$CONV/conv.sh中の下記の箇所をコメントにする。

```
# insert.err should have 3 lines saying 'recognized query', else error
# if [ ! `cat insert.err`
# then
#   echo "Error: Trouble loading data into conversion control data base."
#   cat insert.log insert.err
#   echo "Exiting ...." `date`
#   exit 2
```

```
#fi
#rm -f insert.log insert.err
```

Step6 変換ユーティリティの実行
 \$ \$CONV/conv.sh > conv.log 2>&1 &

Step7 変換ユーティリティ実行後のスクリプト確認

変換ユーティリティが正常に実行されれば、DataServer ELSのデータベース設計がDDL形式に変換されている。失敗した場合は、スクリプトファイルは作成されず、ワーク用ディレクトリworktmpが残っているので、失敗の原因を追及した後、\$DBPATH/./DS_DBの内容をすべてクリアし、コンバージョンを再実行する。成功した場合に作成される主なDDLスクリプトを掲げる。

Ucreatedb.sql	データベースを作成するためのDDL
Utables.sql	テーブルを作成するためのDDL
Usynonyms.sql	列のシノニムを作成するためのDDL
Uhashtabs.sql	ハッシュインデックスを作成するためのDDL
Ulinks.sql	リンクインデックスを作成するためのDDL
Ubtrees.sql	Bツリーインデックスを作成するためのDDL
U4.dump.sql	全テーブルのレコードをファイル落すSQLコマンド
U2000.load.sql	DataServer にレコードをロードするためのSQLコマンド
U2000.sh	データベースを作成するためのシェルスクリプト
Uaddcgp.sh	カラムグループを定義するためのシェルスクリプト

[注釈]

- 1) Utables.sqlに記されたテーブル名にはショート名が、列名にはロング名が使われている。列のショート名はシノニムという形式でUsynonyms.sqlに出力されている。
- 2) コンビネーションフィールド (COMB) に該当する機能がDataServerにはなく、Utables.sqlではカットされ、コンポーネントフィールドのみ落ちている。グループカラムは、Uaddcgp.shで定義する。
- 3) DataServerは、ハッシュインデックスが自動で作成されないため、一次キーに対して Uhashtabs.sqlで明示的に作成しなくてはならない。
- 4) セキュリティの定義は変換できない。
- 5) 従来のエンター画面はDataServerに移行することはできない。

2. DataServerデータベースの作成

Step1 DataServer の環境変数の設定

```
UNIFY=/home/DS/lib
DBPATH=/home/DS_DB
DBNAME=file.db
PATH=/home/DS/bin:$PATH
```

以下の2つはここでは必要ないが、ACCELL/SQLのアプリケーションを実行するときには必要になる。

```
TERMCAP=$UNIFY/termcap
UNICAP=$UNIFY/unicap
```

Step2 file.cf (コンフィギュレーションファイル) の作成。

\$UNIFYにあるprod.cfをfile.cfにコピーする。
(例) cp \$UNIFY/prod.cf \$DBPATH/file.cf

コピー後、file.cfを修正し、SHMKEYにデータベース単位でユニークな値(例えば6904など)を設定する。LMSHMKEYの行はコメントにする。

Step3 conv.shで作成したU2000.shを実行し、DataServerのデータベースを作成する。
\$ U2000.sh > sql.log 2>&1

Step4 列グループの登録
\$ Uaddcgp.sh

3. データ転送(DataServer ELS->DataServer)

Step1 DataServer ELSの環境変数の設定

```
UNIFY=/home/ELS/lib
DBPATH=/home/ELS_DB
DBNAME=file.db
PATH=/home/ELS:/home/ELS/bin:$PATH
```

Step2 DataServer ELSレコードのダンプ

全テーブルに対し次の作業を実行し、データをバイナリファイルにダンプする。
\$ cd /home/DB_DS/data
\$ SQL
\$ sql> select * from テーブル名 into bin 'テーブル名.dat' /

Step3 DataServerの環境変数の設定

```
UNIFY=/home/DS/lib
DBPATH=/home/DS_DB
DBNAME=file.db
PATH=/home/DS/bin:$PATH
```

Step4 レコードを DataServerでデータのロード
全テーブルに対し次の作業を実行し、Step 2 でダンプしたバイナリファイルから
DataServerにレコードを登録する。

```
$ cd /home/DB_DS/data
```

```
$ SQL.
```

```
$ insert into テーブル名 values from bin 'テーブル名.dat';
```

[注釈]

変換対象がUNIFY2000の場合は、\$CONV/conv.sh実行時に作成される
U40dump.sqlとU2000.load.dbldを使用してロードを行なうことができ、この方が
手順としては簡単である。

変換対象がDataServerの場合、U40dump.sqlとU2000.load.dbldにレコードダ
ンプを行なうための情報が書き出されないため、Step 2 とStep4の手順の通り、SQL
コマンドを直接実行して変換を行なう必要がある。